

八月八日の記事
 っふん肥料にミニトマトを讀んで
 私がこの記事を選んだ理由は、滑川高。
 海洋科三年生という見出しが目に入、たか
 らです。自分の知っていた学校がの、いた
 ので興味がありました。
 記事の内容は、海洋科の三年生の方々が人
 工飼育しているサケラマスのおふんの利用につ
 いてでした。私ははじめ、魚のおふんをそ
 んだにないだろう、利用法はなんてないだろ
 うと思いましたが、でもよく考えてみると、人
 工飼育しているのが、水がきつた、だから水
 の交換などしているのか、なと思いましたが、そ
 したら、そのときに、た汚れたなどはどうなっ
 ていりか、なと思いましたが、そこで考え出さ
 れたのが、ふんのお利用は、たとい、らことか、ゆか
 りました。ふんを、利用するのは、おずかしそう
 だと思、たし、一体何に利用できるの、た、う
 か？と思、いま、た。滑川高の、た、は、植物、裁



け	き	少	う	あ	ふ	量	り	た			け	が	手	せ	う	ク	化	マ	肥	培	
ぞ	ふ	い	マ	る	ん	は	か	に	ト		く	ぞ	間	た	ぞ	ラ	学	ト	料	に	
、	た	い	ス	ト	の	多	と	な	マ		こ	き	が	と	す	マ	肥	裁	料	利	
味	た	い	の	マ	肥	か	い	っ	ト		は	こ	か	あ	。二	ス	料	培	の	用	
に	た	い	ふ	ト	料	っ	ら	た	は		は	も	か	り	日	の	で	の	さ	に	
ち	の	い	ん	が	ど	た	な	そ	七		ら	、	こ	ま	に	ふ	育	だ	ん	て	
が	だ	い	の	が	育	そ	い	う	月		な	そ	い	し	一	ん	ち	ら	い	ま	
い	と	い	肥	ど	ち	う	と	ど	下		い	の	る	た	回	の	の	う	ま	し	
が	思	い	料	そ	ほ	ど	化	ど	旬		思	後	思	が	の	肥	後	と	た	た	
ぶ	い	ま	ど	う	う	ん	学	ん	ご		い	き	い	ニ	料	を	か	て	い	ま	
る	ま	す	育	ど	か	だ	肥	だ	ろ		ま	ち	ま	日	つ	か	ら	い	ま	し	
の	す	。	ち	す	味	け	料	け	に		し	ん	し	に	か	苗	の	ま	し	た	
は	肥	た	た	。	が	の	ど	の	は		た	と	た	一	、	の	一	た	。	。	
が	料	す	ト	。	濃	実	ん	ほ	収		世	お	。	日	て	本	。	。	。	。	
、	が	。	マ	。	く	が	。	う	穫		話	世	。	回	裁	を	。	。	。	。	
く	ち	。	ト	。	、	ら	。	う	ど		し	話	。	は	培	と	。	。	。	。	
ソ	が	。	は	。	甘	マ	。	マ	き		て	。	た	し	ソ	。	。	。	。	。	
し	ら	。	。	。	み	ス	。	ス	。		い	だ	。	込	た	、	。	。	。	。	
ま	う	。	。	。	の	。	。	。	。		か	。	。	入	そ	サ	。	。	。	。	
し	だ	。	。	。	。	。	。	。	。		か	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。



花。それに、その肥料がサクラで
 のど、有害な薬などがたまるう
 いました。けいけんは、捨てる
 普通では、捨てるうたものを
 利用法がはいかをえ実践し成
 さいと思いましたが。私も捨てる
 さいと思いましたが。他に利用
 できることがはいか
 えこいきたいと思いましたが。そ
 うやっそ一人
 一人が限りある資源を大切に
 大事にしたいと思いましたが。ほ
 るようにしたいです。



サクラマス養殖の「厄介者」



サクラマスのふんで育てたトマトを見せる米屋君（左）。
朝野さん（中央）が手にするのは化学肥料のトマト

地域ワイド

ふん肥料にミニトマト

滑川高校（滑川市加島町）海洋科の3年生が、同校で人工飼育しているサクラマスのふんを利用し、ミニトマトを栽培する実験に取り組んでいる。資源を有効に活用する循環型社会を目指す取り組みで、収穫した実の味は上々という。生徒は「今後いろいろな植物の栽培につなげたい」としている。

滑川高海洋科3年生

海洋科は、県産サクラマスの資源回復を目標に前身の海洋高校時代から人工飼育に取り組んでおり、この20年目になる。卵から成魚まで育てる高い技術を確立し、生態研究や放流を行っている。

一方、魚の養殖では飼育中に出るふんの処理が課題で、同科も水槽の水の交換時に捨てていた。このふんを植物栽培に利用できないかと考え、3年生7人が4月から鉢でトマトを育て始めた。

2本の苗をしばらく化学肥料で育てた後、うち1本は6月下旬から肥料をふんに切り替え、2日に1回のペースで土に溶け込ませた。7月下旬には、収穫できる大きさに成長した。化学肥料で育てた方が実が多いが、味はふんで育てた方が良いという。同科の朝野未紗さんは「味が濃く、甘みがある」と話す。

同科で海洋クラブ会長の米屋秀一君は「実験を生かし、後輩にはトマト以外の植物の栽培にも挑戦してほしい」と期待する。同科は来年はハーブを育て、サクラマスの「バジルオイル漬け缶詰」などの開発につなげたい考えだ。